

## 西三河支部

## 第3回 自社PR & 調べて発表! 西三河

- 日 時：令和6年12月5日（木）午後3時
- 場 所：岡崎市図書館交流プラザ 301 会議室  
（岡崎市康生通）
- 参加者：53名（去年は42名）

西三河支部（石山勝範支部長）は、西三河支部独自の事業である「第3回 自社PR & 調べて発表! 西三河」を開催しました。

石山支部長は挨拶で、「変革の時代の中、当支部独自の事業を通じて業界の横の繋がりを形成し、相談し合える関係を構築できれば良いと考えております。」と述べました。

来賓の挨拶で小野俊之専務理事は、現在各支部において行政と協力の下、実施されている「災害廃棄物処理仮置場設置・運営訓練」の必要性、また、「資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律」が閣議決定され、業者間における情報共有の大切さについて話があり、そのツールとしての「循環あいち」の重要性が述べられました。

その後、神谷則夫委員から「支部活動報告」があり、今年度の活動報告、及び西三河支部内のマッチング機能としての業者プロフィール表の説明がありました。

「支部からのお願い」としては、支部開催事業への積極的な参加、新規会員獲得に向けて近隣業者の情報収集等について話がありました。



挨拶する石山支部長



挨拶する小野専務理事



報告等をする神谷委員

### ◆第一部 自社PR

「自社PR」は支部会員同士の相互経済交流の促進を目的とした事業であり、予め応募のあった支部会員がパワーポイントなどを用いて自社の強み、主力商材、過去の実績などを支部内でPRするもので

す。これにより自社で処理できない案件や得意でない案件などをこの事業を通じて委託や紹介をすることができ、総合的に排出事業者への処理提案ができるようになることも目的としております。

### 有限会社花丘商事

有機性廃棄物の肥料化・たい肥化リサイクル

代表取締役 梅谷明子氏

「緑からもらったものを緑にかえそう」をスローガンにし、動植物性残さや有機性汚泥を中間処理して農地還元を行っております。関連会社にて農地を管理し、菜花やネギ、ほうれん草などの野菜の栽培、菜種からは「なのはな油」を精製し、販売も行ってまいります。支部会員の手土産としてポトリングされた「なのはな油」は非常に好評でした。



自社PRする梅谷氏

### 岡崎リサイクルセンター株式会社

総合建設廃棄物処理

石川瑞基氏、宮本 豊氏

岡崎市内に真福寺工場と宮石工場を構え、真福寺工場では混合廃棄物の選別処理やコンクリートガラ、アスファルトガラのリサイクルを行  
左側から 自社PRする石川氏、宮本氏  
い、処理しにくいとされる杭頭や大型がれきの受入も行ってまいります。宮石工場ではカッター汚泥や建設汚泥のリサイクルを行うなど、建設系廃棄物の総合リサイクルや処理を行っております。  
また土木工事や解体工事を行うことができます。



### 株式会社鈴鍵

木の伐採およびウッドチップリサイクル

取締役 丹羽庸介氏

大型造成工事（高速道路建設、テストコース建設、大型工場建設、ダム建設）に伴う木の伐採から収集

運搬、処分、そしてこれを100%資源化しております。

幹の中が空洞になってしまい、いつ倒れるかわからない樹高32m、幹周5.6mの木を伐採する様子を動画にて公開され、木の幹はパルプ原料の有価物として製紙工場へ搬入され、枝や根っこが廃棄物として破碎され、たい肥化リサイクルされます。



自社PRする丹羽氏

また、移動式破碎機を所有し、大型造成工事現場内にて破碎してチップを製造し、造成法面に吹き付けることにより法面の土砂流出を抑えるパークブロワ工法も強みの一つであり、生物多様性を保全する為のビオトープの設計・施工・維持管理にも力を入れています。

## 行政書士 松永宰事務所

今日から始める行政書士の使い方  
松永 宰氏

金属スクラップ業に15年勤めていた松永氏の略歴に始まり、士業の区分け、行政書士の代表的な業務を説明され、業務の選択と集中のために行政書士をどう使うかということをご提案されました。



自社PRする松永氏

また許可申請のポイントとして、先行許可証制度、6条の10使用人、廃棄物管理士制度の活用について説明されました。

ほかに、外国人技能実習生を機械保全の技能実習生として受け入れる方法やリサイクル品製造工程に特定技能実習生として受け入れる方法についても説明がありました。

## 株式会社サニックス

次世代へ快適な環境を

工場長 渡邊健太氏

廃プラの処理工場を全国に15か所構え廃プラの資源化を行っています。各地で処理した廃プラ燃料は、北海道苫小牧市にある発電所（子会社）にて発電燃料として使用しています。またその他企業様へボイラー燃料等とし



自社PRする渡邊氏

て供給させていただき、リサイクルを行っています。

廃液処理については北九州市に工場があり、名古屋・大阪にて積み替え保管、九州まで幅広く処理することができます。

新たなサービスとして廃棄物業務を一元管理するシステム「一元くんシリーズ」を開発し、排出事業者、収集運搬業者、処分業者に向けた管理サービスを展開しております。これらを導入することにより各管理の効率化、またコンプライアンスの強化や属人化の防止などを実現することを可能にします。

## ◆第二部 調べて発表！西三河

支部会員が業界に関連することを調べて発表するという事業であり、講師などを招かずに自分たちで調べて共有化することを主眼とするものです。

### 資源循環と我々の宿命

講師：金井邦剛氏（株）ハヤブサ環境サービス

身近にあふれる「資源循環」という言葉ですが資源循環が本当に必要であるのか？ということをご調べ、さらに我々の宿命を考察しました。



発表者の金井副支部長

ナウル共和国のリン鉱石による栄光と衰退の説明に始まり、大航海時代のスパイス資源の海運航路の開拓とスパイス争奪戦が起りましたがスパイス苗木の移植技術によりスパイス争奪戦は終焉しました。大航海時代による森林資源の枯渇に伴い、燃料枯渇に陥ったことにより石炭という資源が注目され、石炭採掘の際の湧き水を排水する技術として蒸気機関が誕生し、産業革命が起きました。

（中略）中東で戦争が起こるたびに重要な資源である石油の供給に不具合が生じ、これに依存しないエネルギー供給を構築する必要があります。さらに地球温暖化対策も相まって世界は再生エネルギーへの転換を進めるのであります。再エネを加速させるためにはモーターや蓄電池などの設備を行う必要があります。その設備にはレアメタルやレアアースなどの資源が必要となってきます。偏在するこれらを巡り、また戦争や紛争、貿易摩擦が起きているのも事実であります。

ということで、資源を循環し偏在する資源の輸入量を減らすことで国力を向上させ、強い生産基盤を担保する分野として資源循環は必要であり、廃棄物化した製品から資源抽出し、量をまとめて生産工程へ還元することが我々の宿命であり、国力を向上させる非常に重要な業界であると金井氏は説明しました。